

P1-012

医療的ケアを必要とする医療型短期入所時の課題

川西 義光、檜原 幸二、村下 志保子

社会福祉法人 旭川荘 旭川児童院

【背景】

近年、在宅での重症心身障害児（者）の増加に伴い短期入所の利用が年々増加している。当施設では可能な限り利用者や家族に応じた支援に努めている。それには不安解決、苦情解決やリスクマネジメントの仕組みなどが機能することが大切である。そこで、短期入所の実態を調査し、質の高いサービスを提供するための対策を構築した。

【対象と方法】

平成25年4月1日から平成27年7月31日までに短期入所を利用した148名を対象に郵送による自記式アンケート調査をした。アンケート調査の内容（満足度・安心感や不安感など）、対象者の状態（基礎疾患・重症度・年齢・利用条件など）について調査した。結果：短期入所を利用した家族に対して83名の利用者の回答が得られた（回収率56%）1、情報共有不足の為、病棟と病棟とで情報の共有を行ってほしい。2、8病棟16床の利用で病棟によって対応の仕方が違う。3、個室での対応に対して一人で過ごすことが寂しいと感じている。これらのように短期入所の利用に何らかの不安を感じている家族が17%いることがわかった。

【考察】

昭和62年と平成1年度に短期入所事業の一部改正が行われ、旅行などの私的理由での利用が認められ利用しやすい制度となった。短期入所は利用者を安全に預かる制度となっている。しかし、本人や家族は短期入所中に人との関わりや楽しさを求めている。今後、短期入所中に抱く不安や心配を軽減するために、詳細な情報収集や看護、介護の知識の向上を図るなど質の高いサービスの提供や、安全で心地が良い環境設備が必要である。

P1-013

発達に関する地域連携勉強会を振り返って

片山 威

津山中央病院 小児科

【目的】

当院における発達に関する地域連携のための勉強会を振り返り、勉強会での話題の変遷について検討・考察する。

【方法】

当院では岡山県北部津山市周辺の保健・医療・福祉・教育関係者が集まる勉強会をKOK会と名付けて平成23年5月から2か月に1回の頻度で当院会議室にて開催している。平成23年5月から平成30年1月までのKOK会で扱ったテーマを後方視的に検討し、勉強会での話題の変遷について検討・考察した。

【結果】

調査期間、44回の勉強会を開催していた。会の話題はテーマ不明の2回を除き、医療分野15回（2013年まで8回／2014年から7回）、福祉分野14回（2013年まで8回／2014年から6回）、教育分野11回（2013年まで2回／2014年から9回）、保健分野4回（2013年まで2回／2014年から2回）で、2013年までと2014年からで話題を比較すると教育分野に関する話題が増加していた。

【考察】

2013年までと2014年からで話題を比較すると教育分野に関する話題が増加していた。通級指導教室を発展させた津山市特別支援教育推進センターの業務の充実を受け、教育分野からの参加者や話題提供が増加傾向となっていることが影響していると考えられる。一方、2012年児童福祉法改正で療育に関する福祉制度が改正され、放課後等デイサービスを提供する施設が急激に増加したが、本会に継続して参加する施設は少なく福祉分野からの参加者や話題提供が減少傾向であった。

発達診療においては、児と過ごす時間が長い地域の教育・福祉関係者との連携がかかせない。今後は放課後等デイサービス施設への積極的な会の参加を呼びかけていくことが必要と感じた。

【結論】

当院における発達診療に関する地域連携のための勉強会を振り返り、発達障害に関する話題の変遷について検討した。参加者の広がりとともに、教育分野に関する話題が増加傾向であった。